



題 字
初代会長 松野 盛吉
定 価 1部 48円
(購読料は年会費に含む)

発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中田 潤
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
http://www.shoubou-akita.or.jp
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
http://www.matsubarainsatsu.co.jp



消防団員の処遇改善と 水防活動予算の確保を決議

東北地区消防連絡協議会

平成二八年度東北地区消防連絡協議会は七月二六日(火)、「ホテルメトロポリタン秋田」を会場に、東北地区七県(新潟県を含む)の消防協会から会長、副会長、事務局員ら五五名が出席して開催されました。秋田県消防協会からは正副会長のほか、開催県として各理事、監事など一八名が出席しました。また来賓として佐々木秋田県危機管理監、穂積秋田市長から祝辞をいただきました。

連絡協議会では、前年度決議事項について福島県消防協会から処理報告が行われた後、議事に入り、各県から提出された要望事項などについて熱心に協議され、「退職報償金支給基準の勤務年数の三五年以上の新設について」、「消防団の水防活動に係る消防関係予算の確保について」それぞれ関係機関に要望することとしました。また、本協議会は来年度青森県で開催することに決まりました。

平成二十八年度全国統 防火標語
消しましょう その火その時 その場所で

前年度決議事項の処理報告

全国女性消防団員活性化大会 青森県招致について

〔福島県消防協会報告〕

平成二七年九月九日、決議事項(平成三〇年度東北ブロックにおいて前倒し開催)について公益財団法人日本消防協会に対して要望しました。



その後、平成二八年三月七日に開催された同協会の消防団員確保対策等委員会において次のとおり決定されております。

□平成三〇年度 近畿ブロック (従来ローテーションのとおり)

□平成三一年度 東北ブロック (従来ローテーションから一年前倒し)

※青森県において開催

□平成三二年度 四国ブロック

(従来ローテーションから一年先送り)

平成三三年度以降の開催ローテーションは、従来のローテーションに戻ります。

要望事項

一 退職報償金支給基準の勤務年数の三五年以上の新設について
《岩手県》

退職報償金は、退職した消防団員の多年の労苦に報いるため、市町村が支給する功労金として創設された制度であります。その支給基準は、「市(町村)非常勤消防団員に係る退職報償金に係る退職報償金の支給に関する条例(例)」によると、階級及び勤務年数に応じて支給となり、勤務年数は「五年」ごとに区分され、最高は三〇年以上となっております。定年制の延長、年金支給年齢の引き上げ等の社会経済情勢に対応するため、勤務年数三五年以上を新設するよう要望いたします。



■主な各県の意見等

〔山形県〕

山形県消防協会定例表彰において

「永年勤続章」受章者のうち五〇年(二名)、四五年(三名)、四〇年(二五名)、三五年(五八名)おり、退職報償金支給基準の勤務年数三五年以上の新設は必要と考へます。



【福島県】
地域防災力充実強化法の制定を受け、平成二六年四月一日以降に退職した場合、支払額が一律五万円増額されることに政令が改正されたものの、平成二五年度に要望した「勤続年数における改正」には至っておりませんので、再度要望するとに賛同いたします。

【新潟県】

本県の経験年数三〇年以上の消防団員数は、八四九人(平成二七年一月一日現在)、三五年以上の団員数は一八三人(平成二八年四月一日現在)であり、経験年数三〇年以上の者のうち約二〇%を占めている。
但し、全団員のうちでは約〇・五%



であるが今後は定年制の延長で割合が大きくなる可能性もある。さらに、二〇代で消防団員になれば三五年経験の可能性が大きくなることから、趣旨に賛同します。

二 消防団の水防活動に係る
消防関係予算の確保について
《福島県》

消防団の水防活動については、消防活動の大きなウエイトを占め、多くの水防団において、その活動比率は年々大きくなってきている。それにもかかわらず、活動に見合う装備等が十分に支給されていないのが実情である。

そのため、水防業務を所管する国土交通省には、活動相応の予算措置をお願いするとともに、「地域防災力充実強化法」の制定を契機に、消防団に対するなお一層の支援をお願いするものである。

【秋田県】
最近の気候は、ゲリラ豪雨や長雨などが多発する傾向にあり、河川の氾濫などに対応する水防活動はますます重要になるものと考えます。

■主な各県の意見等

【岩手県】
一方、平成二五年一二月、議員立法により「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が制定、平成二六年二月、「消防団の装備の基準」が改正、装備、資機材等の充実が図られ、地方交付税措置額が標準団体(人口一〇万人)当たり、約一、〇〇〇万円から平成二六年度に約一、六〇〇万円、平成二七年度に約一、六八〇万円へ拡充していることから、この地方交付税措置額の拡充や国庫補助制度への復活など本来の消防関係予算の確保等も要望致します。

本県においても消防団が水防団を兼務して水防活動を行っており、減少傾向にある消防団員が、憂いなく安全で十分な水防活動ができる体制を整えるため、消防予算確保について関係機関へ働きかけることに賛同いたします。

【青森県】

要望することに異論はありません。

【岩手県】

賛同致します。

一方、平成二五年一二月、議員立法により「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が制定、平成二六年二月、「消防団の装備の基準」が改正、装備、資機材等の充実が図られ、地方交付税措置額が標準団体(人口一〇万人)当たり、約一、〇〇〇万円から平成二六年度に約一、六〇〇万円、平成二七年度に約一、六八〇万円へ拡充していることから、この地方交付税措置額の拡充や国庫補助制度への復活など本来の消防関係予算の確保等も要望致します。



協議事項

一 水防団について

《宮城県》

関係法律が違ふことから、消防団員と水防団員の取扱いが異なり、様々な疑問が生じていますので、各県の状況をお聞かせ願います。



二 公務活動中に死亡した消防団員が公務認定されなかった場合の補償について《秋田県》

提案理由を説明した後、フリートーク形式で各県から意見を伺った。

消防職員意見発表

平成二七年度全国消防職員意見発表で最優秀賞を受賞した、大曲仙北広域市町村圏組合消防本部の新田理沙消防士が発表内容を披露しました。

消防団員安全管理セミナー

消防団員等公務災害補償等共済基金

○消防団員の安全管理

S-KYT指導員 日野進氏

○消防団員の公務災害補償

災害補償課長 佐藤郁夫氏

第12回 消防団員 意見発表会(一)



小林 雅文
・八峰町消防団
班長
・勤続二五年
・会社員

小型ポンプ操法や規律訓練の指揮者を、自ら率先して引き受け活躍、今後は幹部団員として期待される。

「地域に愛される消防団員として」

私が消防団に入団してから、二五年が経過しました。これまでの経験と、これからの消防団員としての自分の目標を発表したいと思います。

初めて消防団に入団したときは、正直言つて何をすればいいのか、全く分かりませんでした。右も左も分からないまま、消防団員として活動していたのが操法訓練でした。週に三回消防署員の方々からご指導いただきながら練習をしていきましたが、これが果たして何のためになるのか、当時は疑問を抱いておりました。大会が終わり少したつてから、火災が発生し初めて火災現場へ出勤しました。火災現場で消防署員の方々の指示で消火活動を実際行つたとき

は、火の側で火災は恐ろしいと思ひながら消火活動をしていました。しかし、訓練で練習していたおかげで、被害を最小限に食い止めることが出来ました。今はその時の思いを忘れずに、万が一の災害に備え、訓練や予防策を頑張っています。具体的な予防策として、私は消防団員として地域の祭りやイベント、その他防災に関する行事に積極的に参加しております。

また、近年、空き家や独り暮らしの増加が問題となっておりますが、私は地域に愛される消防団員として、地域の方々とふれあいを大切にし、防災に関することをお互い声かけしながら、今後も消防活動を続けて参りたいと思います。

私は、まだまだ防災に関する知識は決して十分だとは言えません。そのため、これから活動していく上で、消防署員の方々と関係機関のご指導のもと、一層勉強していく所存です。

最後に、本日はこのような機会を与えていただきありがとうございます。



伊藤 由香里
・湯上市消防団
部長
・勤続一三年
・会社員

今年四月誕生した、湯上市消防団女性部の初代リーダー。持ち前の明るさと責任感の強さから、部下団員に慕われている。

「私たちが出来ること」

私が消防団に入団したのは、今から一三年前の平成一五年の時、湯上市が合併する前の旧飯田川町の時でした。当時は「消防団員は男がやるもの」と誰もが思っていたし、女性が火災現場に行つて火を消すなんて夢にも思わなかったと思います。当然私もそう思っていました。

ではなぜ消防団に入団したかと言えば、丁度入団する前に夜中の火災が発生しました。男性消防団員は直ぐ駆け付けようと消防小屋に行き、いざ積載車で行くぞつていう時にみんなが酒を飲んでいたので、いくら消防団員といつても、やはり暗くなれば晩酌する方が多いと思うし、大昔は飲んでから運転しても多めに見てもらえたかもしれませんが、最近では絶対禁止されています。

そのようなことから、役場からの指導もあり「団員の家族の人を緊急時の運転手として入団させる」という話の中で、たまたまうちの旦那も消防団員だったため、私に声がかかったのです。当然誘い文句は「何かあった時だけ運転頼む」で、「後は何もやらなくていいから」でした。

私もそれぐらいならまあいいかと軽い気持ちで入つたのを覚えていません。これを言えば怒られるかもしれませんが、実際ここ四、五年くらい前までは何もやっていません。運転手の団員だったので、それも別にないとも思いませんでした。

こんな私でも考えさせられる出来事がありました。平成二四年の年に全国各地で開催されていた、女性消防団員活性化大会が秋田県で開催された時です。

全国から二、〇〇〇人以上の女性団員が集まって来ました。「やっぱり全国規模となれば人いるなあ、この人たち何やってるんだろ。」そんな気持ちで大会が始まりましたが、先進地の活動事例発表、火災予防啓発劇を見たときびっくりしました。特に、火災予防啓発劇は本物の劇団がやっているような完成度の高さで、普通ここまでやるかあ、みんな仕事しているのかなあと本当に驚きました。

翌年の岐阜大会の時も参加させていただき、全国各地の女性団員の活動を見て、女性団員は火を消すことよりも、火災を出さない、防火・予防活動をメインに活動しているところが多いことに気付くことが出来ました。

それから三年、私自身の意識も変わり、どうせやるんだつたらしっかりと志を持つとうと思ひ、団員の

勧誘に力を入れ、団幹部皆様にご協力もいただき、今では女性団員も二〇名まで増えました。
さらに今年四月に念願だった組織の独立、「女性部」も設立、いよいよ本格的なスタートラインに立ったところです。

今年の活動目標は、「火災予防の家庭訪問」と「軽可搬ポンプ操法」です。操法では指揮者をやることにもなりました。八月の秋田県消防操法大会で披露しますので、是非ご注目ください。

女性団員が出来ること、私たちが出来ること、発見・実行する旅に今出発します。



木村 綾子

・秋田市消防団員
・勤続十年
・会社員

仕事、家事、子育て、消防団と四役こなすスーパーウーマン。
女性目線のきめ細やかな対応と母親目線の優しさが好評を得ている。

「私にできること」

今から十年以上前、私は高校を卒業し、県外の大学へと進学しました。
自由気ままな一人暮らしは楽しい

ものでしたが、いざ地元を離れてみると、聞き慣れた方言、食べ物、ご近所とのつながりさえも懐かしく、生まれ育った地元のありがたさに気づき、卒業後はまた秋田へと戻り、地元へ恩返しをしたいと考えるようになりました。そして幸運にも、卒業する年の四月に秋田市で初の女性消防団が発足することになり、これなら地域のために何か出来るかもしれない、私は迷わず入団を決めました。

それから十年が経ち、操法大会の全国大会へも出場しました。応急手当の指導員の資格も取得し、救命講習会も行えるようになりました。そしてその間に、結婚し、出産し、女性ならではの課題にもぶつかったのです。これは現在二名の団員がいる秋田市女性消防団全体の課題でもあります。活動したいと思っても、まずは家族のことが優先、自分のこともままならない日常の中、消防団活動の時間を作ることは至難の技でした。女性は結婚や出産、介護など、その時々々のライフスタイルが変わることが多く、勿論、仕事を持っている団員も多いので、家庭の事情や仕事の時間、休日も皆バラバラ、そのような状況の中でそれぞれがどのようにモチベーションを保って活動して行くのが非常に難しいのが現状です。

けれども、ライフスタイルの変化により気付けたことも沢山ありました。小さな子供はおもちゃを口に入れたり、突然熱を上げたり、見ていてヒヤヒヤすることばかりです。

そんなお母さんたちこそ、応急手当の方法を知りたいのだと、自分が母親になって気付きました。でも、子供連れでの外出は、どこへ行くのも気を遣い、子供のご機嫌や体調しだいでは予定が変わることは日常茶飯事で、消防署などで一般向けに行われている三時間の救命講習会への参加が難しいとすれば、子供連れでも気兼ねなく参加出来る講習会を作ればいいんだ！そう思った私はまずは同じく子育て中の友達に声をかけ、子供連れでOK、短時間で、乳幼児の応急手当について特化した講習会を開きました。それならばみんなが小さな子供を持つお母さんなので、誰かが騒いでもぐずってもお互い様、実技の時には交代で子供達の相手をするなど、何の気負いもなく、応急手当を学んでもらうことが出来ました。

その講習会をきっかけに、今度は消防署の本格的な講習会も参加してみようかな、家族や友達にも勧めたい、という声が聞こえてきたのも、非常に嬉しいことでした。子育て中のお母さんたちに限らず、対象となる方のニーズに合わせて、場所や時

間、内容に配慮出来るオーダーメイドの救命講習会のように、地域に密着した消防団ならではの活動の有効性を感じています。

また、我が家は主人が自衛官で、私は消防団員。大規模な災害でもあれば、夫婦揃って飛び出していかなくてはならないかもしれません。極端な話ですが、近年の災害の多さも重なり、子供には日ごろから自分の身は自分で守れるよう、生き抜く力を身に付けておいて欲しいと思うようになりました。そんなことから、以前から団の活動として取り組んできた幼稚園や保育園での防災講話にも一層力を入れて取り組んでいきます。子供達には防災講話、お家の方には救命講習会と、一つの家庭には様々な形で関われることは、地域全体の防災力の底上げにも繋がると思っています。

「私にできること」が集まれば、それが「私たちにできること」になります。このように、どんどん変わるライフスタイルを強みに変えて、これからは秋田市女性消防団は頑張っていけます！



佐々木 千秋

・由利本荘市消防団分団長
・勤続三〇年
・会社員

豊富な消防知識と経験を生かし、団員の土気高揚や指導育成を図り地域住民の防火防災意識の啓発にも努めている。

「あれから消防三〇年」

今年の出初式で永年勤続三〇年の表彰をいただきました。勤続年数は、西目支団で三番目の長さになってしまいました。「あれから三〇年たったのか」という想いです。

私は二六歳で消防団に入りました。私の町内は当時二四軒でしたので、殆どの若者は、親の世代の引退に伴って消防団に誘われました。私も父が消防団OBでしたので「いつかは消防やるんだろうな」と覚悟はしていました。私が消防団に入る前です。町内で「放火事件」がありました。現場は喫茶店兼雀荘で、私の自宅敷地内でした。土地を貸していただけなので我が家は関係ありません。一月か一二月頃、時間は深夜〇時半頃でした。「火事だ！千秋！隣火事だ！」お袋の叫び声に驚いて、カーテンを開けると喫茶店から出る黒い煙と地元消防団の放水が見えました。初めて火災現場を見たので恐ろしい想いをしました。最初に放水したのが地元消防団でしたので、「さすが消防団だな」と思いました。後日談ですが、実は小型ポンプのエンジンが掛からず消

火栓から放水していたそうです。多少がっかりしましたが、地元が一番良かったと思えました。

消防団入団当時、小型ポンプ操作を仮定した操法でした。最後「納め」の号令で一番員は三本目ホースを手で巻いて戻るので、不器用な私がかつて苦痛で苦痛でしかたありませんでした。一番員は一年で終わりました。二年目は二番員でした。自宅で「もやい結び」の練習をよくやりました。今では行っておりませんが「吸管の納め」もありました。

何年目か定かではありませんが、最初に三番員をやった時、大会本番で「燃料コックオフ事件」がありました。大会当日の朝、エンジンの調子確認して、自分達の出番の前にもエンジン掛けて確認していました。いざ本番では一発でエンジンが掛かり、真空も問題なく練習より早く送水できました。これは良いタイムが出ると思つた矢先、エンジンは止まりました。セルを何回まわしてもエンジンが掛からず、紐を引っ張り手動でもやっても掛からず、目は点になり頭の中はパニックになりました。赤旗を持つた人が近づいてくるのが見えて、「ああダメか」と思つた時、燃料コックが下向きではなく、横向きなのを見つけました。「あっこれだ」即座にコックを下に向けセルを回しまし

た。すると無事にエンジンが再始動し、遅ればせながら何とか的を倒すことが出来ました。一生忘れることの無い事件です。

翌年は前年のリベンジを目指しました。中々上位に食い込めないの、ある程度の節度は守りながら、せめてタイムだけでも一番になろうと練習しました。大会本番は練習以上の出来だったと思います。順番が進むにつれ、周りからザワザワと「今年は豊栄からやられたな」という声が聞こえてきました。「まさか」と思いましたが、団員が測るタイムでは最後まで私たちが一番でした。減点あるから一番は無いだろと言いながら、「表彰式は誰出る？」という話もしてました。結果、色々減点あったようで七位でした。この当時から若さであり情熱もあり可能性が一番あったかも知れません。

現在、私達は平均年齢五二歳で、西目支団で最も高齢化の進んだ部になりました。由利本荘市では、消防団再編成の動きが出て来たようですが、五ヶ年計画であり、完了する頃に私は六一歳になります。最後まで現職でいるのか、思い切つて退団するのか決めかねておりますが「有事の際には地元を守る」という気持ちを変わずにいたいと思います。つたない話でしたが、皆様ご静聴ありがとうございます。

地域の防災、災害対策に貢献！

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651

モリタ消防ポンプ
桜ホース・ソフト吸管
各種消火器

シバラポンプ
消防被服一式
消防機器一式

株式会社 **能代消防センター**
株式会社 **協立**

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

70期教育
あきた病院での
研修を終えて
秋田県消防学校
初任教

第七〇期初任教育入校生は二班に分かれ、六月二十七日と二十八日の二日間、由利本荘市岩城の「あきた病院」で研修を行いました。
この研修の感想文が寄せられましたので紹介します。



瀧澤 泰彦
秋田市消防本部

あきた病院での研修を終えて沢山のことを学ぶことができました。
研修に行く前まであまり重度の障害者と関わったりする機会がなかったので、正直なところコミュニケーションをうまくとれるか心配でした。しかし、自己紹介や患者の人たちとゲームをしている間に、最初は緊張しているのか素顔を見せてくれなかった人が、自ずと喜怒哀楽を表情に表してくれるようになり、また、考えていることも理解出来るようになってきた。そして、今まで分からなかったのですが、身体に障害があるだけの、心や思考は自分達と変わらないのだなあということも知った。

言葉を話せない人との対話では、身振り手振りで、また相手から理解してもらえらるような努力もしないといけないと分かった。
この経験を生かして、今後の救助、救急活動にも役立てていきたい。

また、車イスからベットへの移動といった障害者の人を搬送する方法や、障害に合った体勢の配慮の仕方、コミュニケーションのとり方なども学ぶことができた。
本当に良い経験であった。



貴俵 大地
横手市消防本部

私は今回のあきた病院での実習では、南三病棟の筋ジストロフィーの方々がいる病棟に実習に行った。実習の前までは病名すら聞いたことが無かったが、説明を聞くと筋肉が徐々に衰えていく病気で、人によって個人差が大きい病気だということも分かった。

私が担当した方は、車イスに乗っている時には呼吸器が必要ない方だった。車イスでは頭を前後に動かして、自発呼吸をしていた。主に会話をしたが、普段は同じ筋ジストロフィーの方と趣味の話や社会情勢の話をしていると言っていた。また、カラオケ施設もあるので、みんなで歌った

り、外出できる時は、ライブを見に行ったりなど私達とほとんど変わらない生活を送っていた。

食事の介助では、食べ物に口を運ぶ手伝いをしたが、食べている最中に次に食べる物を準備すると焦らせてしまうので、その点を注意した。

布団に寝かせる際の注意は、少しの衝撃が骨折などの大きな事故に繋がるので、細心の注意が必要だということだった。また、患者一人一人によって、楽な体勢が違うのでコミュニケーションをとりながら、楽な体勢にしてあげるのが重要だと教えられた。

今回の実習を通して感じたことを、今後の生活に生かしていきたい。



阿部 紘二朗
鹿角広域消防本部

あきた病院の研修では、神経に障害を持つている人と触れ合いました。最初に散歩しながらコミュニケーションを取りました。どのように話していいか、初めは上手に出来ませんでした。小さな話題から話していくうちに、自然と会話することが出来ました。散歩で海の見えるところまで行って、海をみた時に、患者さんがとても嬉しそうでした。自分もこの研修をうけて凄く良かったと思えました。

たと思えました。

車イスに乗り、実際に患者さんの気持ちになつてみると、早く押されると怖い気持ちになり、不安を抱いてしまうということが分かりました。何事も患者さんの気持ちになつて行うことが大切だと思います。

最後に昼食の手伝いをしました。人に食事を食べさせることは初めての経験でしたが、食べる速さ、分量に注意しながらやる事が出来ました。患者さんは食べさせてもらうと楽だなあと喜んでいましたが、自分で食べないと食べる力がなくなってしまうと看護師の人が言っていたので、難しい判断だなあと思いました。
今回の研修で学んだことを、今後の消防人生に生かしていきたいです。



大石 海斗
大曲仙北広域消防本部

あきた病院での施設実習は、南二病棟で行いました。この病棟は重症心身障害の患者が入院しているところで、殆どの患者が車イスでの生活でした。始めにレクリエーションに参加し、イス取りゲームを行いました。重症心身障害の患者と接することは今までになかったもので、最初はどのようにいいか戸惑いましたが、あきた病院の職員さんは皆明るく、患

者の気持ちがるくなるように接していたので、自分も怖がりたりせず楽しく出来ました。職員さんは常に笑顔で、決して暗い表情はせず、患者を心配させないような行動にとっても感心しました。出場した時には重症心身障害の患者がいるかもしれせん。その時は、今日学んだことを生かして活動したいと思いました。

食事の介助見学では、患者一人一人の体質に合わせて形態を変え、カロリーを決めていて、しっかり栄養を摂れるように考えられていました。また、自分で食事をする事が出来る患者には、できるだけ自力で食事させ、出来ることは自分でやるという方針で行っていました。

今回はとても貴重な経験をする事ができ、今後の活動に生かしていきたいと思いました。



大川 翔平
北秋田市消防本部

六月二十七日、あきた病院で研修があり障害を持った方々と直接触れ合うことができる、とても貴重な経験をすることが出来た。

私が担当させていただいた病棟は、筋ジストロフィーを患った患者のいる南三病棟だった。筋ジストロフィーとは筋萎縮と筋力低下が進行

していく遺伝性筋疾患のため、接し方を間違えると知らぬケガを負わせてしまったり、一歩間違えると生命の危険に合わせしてしまうと言われるため、どのように接すれば良いか、また、障害を持った方とのコミュニケーションはどう取ったら良いかなど、とても不安だらけであった。

しかし、病棟を周り、患者さん達と接してみたら意外とお話好きな方が多く、普通に接することができ、とても楽しい時間を過ごすことが出来た。障害を持っている方は、感情表現や自分の気持ちを伝えることが、一般人の人に比べて難しいだけで、一人一人がしっかりと自分の考え、意思を持っている。そのため介助の方法等正しい知識を持つて接することは勿論ではあるが、それ以上に一人の大人として相手のことを尊重し、思いやりを持った接遇をすることが大事だと感じた。

これから先、障害を持った方と接する時は、相手の方に不快な思いをさせることのないように接していきたい。



眞坂 哲
由利本荘市消防本部

私は、あきた病院での研修で南一病棟のスタッフさんや、患者さん達

にお世話になった。そこで初めて感じたことは恐怖だった。

そんな中、患者さん達とコミュニケーションを取る時間になった。喋ることのできない患者さんとは目でアイコンタクトを取ったり、顔の表情だけでもコミュニケーションになると研修先のスタッフさんに教わった。いざ実践と患者さんの体を音楽に合わせてマツサージを行うことになった。「肩からいきませね。」と声をかけると、今まで無反応だった患者さんが少し笑った。次に肩から足にマツサージが移った時、患者さんは少し不機嫌そうな顔をして足を引つ込めた。足のマツサージは受けたくないようだった。次に腕のマツサージをするともまた笑い喜んでくれた。

このように言葉で会話ができなくても、相手の目や仕草から今相手が何をしてほしいのか、何をしてほしいのか相手が自分から自分から相手に伝わるものなんだと感じた。半日が過ぎ、自分の中の恐怖心は消えていた。研修で学んだことを生かして多くの人の命を救いたいと感じた。



遠藤 竜希
能代山本広域消防本部

障害を持つ人との交流と介助見学を体験しました。

初めは、病院の会議室でオリエンテーションがあり、病院の概要や障害に関する事、車イスの取扱い要領を聞きました。

その後、南一病棟では皆さんに自己紹介して障害者の方々とふれあい体操をしました。言葉での意思疎通が困難だったので、少し戸惑いましたが、相手の話していることも聞き取り辛く感じたが、表情やジェスチャーを使いながら、コミュニケーションを取ることが出来ました。人には、人見知りが強かったり、攻撃的だったり、それぞれ特徴があり、どの人にも同じように接してはいけないんだと感じました。

広場でのふれあいの後は、食事の介助体験をしました。お粥をはじめとして、ペースト状のおかずの昼食でした。私が担当した方は、自分で食べることができたので、少し手伝いながらコミュニケーションをしつつ楽しい時間を過ごすことが出来ました。

今回は貴重な体験をすることが出来ました。我々が実務に戻ると、今回のような介助をする機会はないが、傷病者等として関わり合うことがあります。有事では、相手方もパニックに陥ったりするので、そのような状況下でも冷静に対応できるように今回の体験を生かしていきたい。

支部情報アラカルト

能代市山本郡消防競技 大会の開催

能代市山本郡消防競技大会は、七月十日(日)に消防団員の消防技術の向上と士気の高揚を図り、消防活動の充実・強化に資することを目的とし、能代港下浜岸壁埠頭で開催しました。

当日は、梅雨の合間の中、ご来賓の皆様方ほか多数の方からの来場があり、各市町の大会で上位の成績を収めた分団から、規律訓練の部六隊、ポンプ車操法の部九隊、小型ポンプ操法の部一九隊が出場し、日ごろ鍛えた技術を競い合いました。

注目される分団の訓練実施の際には、会場が静まりかえり、一点集中といった特別な緊張感が会場を包みました。

その卓越した技能には、常に郡市大会上位入賞を続ける伝統の強さを感じました。また、会場には団員



の家族も訪れ、大きな声援を送っていました。その様子から、改めて消防団は地域、家族と密着していると強く感じました。



大会の結果、ポンプ車操法は能代市消防団第一二分団、小型ポンプ操法は三種町消防団山本支団第四分団豊岡班が第一位となり、全県大会出場の内符を獲得しました。大会に向けて、更なるご健闘を期待しています。



〔情報提供〕能代市山本郡支部

火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成28年		平成27年			同期比較	
	7月	累計	7月	累計	年計	7月	累計
建 物	13	121	11	120	211	2	1
林 野	0	22	3	29	34	- 3	- 7
車 輛	0	20	6	26	45	- 6	- 6
そ の 他	1	39	8	61	83	- 7	-22
合 計	14	202	28	236	373	-14	-34
死 者 数	1	14	3	31	40	- 2	-17
負 傷 者 数	4	34	4	56	86	0	-22

第53回

秋田県消防操法大会開催のお知らせ

秋田県と秋田県消防協会は、消防団員の消防技術の向上や士気の高揚、消防活動の充実強化を図るため、秋田県消防操法大会を開催します。

多くの方々の観戦をお待ちしております。

開催月日 平成28年8月30日(火) 午前9時から

開催場所 由利本荘市岩城

「秋田県消防学校 放水訓練場」

競技種目 ポンプ車操法、軽可搬ポンプ操法、小型ポンプ操法(競技順)

※小型ポンプ操法の優勝団は、全国大会に出場します。(10月14日 長野市で開催)

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター
消防被服全般
秋 田 県 代 理 店

株式会社 高 義 商 会

- (営業種目) トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服全般
- 火災報知器各種
- 消 火 器 各 種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕 力 吉

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シバウラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp